

「研修会等名称」  
令和元年度教師力向上フォーラム

場所：文部科学省 東館3階 講堂  
期間：令和元年8月1日

## 1. 研修の内容

全体としては、幼稚園を含む初等中等教育を中心とした教師力の向上に関するフォーラムである。ただし、大学教員についても教師力の向上が叫ばれる昨今においては大変興味深いフォーラムであった。

### 1) 行政説明

「教師力の養成・採用・研修の一体的改革の推進について」  
文部科学省総合教育政策局人材政策課長 柳澤 好治

この日のフォーラムの趣旨説明であるが、とりわけ印象深かったのは「横展開」を促したことであった。従来は成果の報告に留まることの多かったこれらのフォーラムにおいて、課長からはぜひとも現場に持ち帰って、実践できることは試してほしいこと、30ページの報告書より1枚の報告書に基づいて実際に取り組むことが強調された。

### 2) 事例発表

#### ①国立大学法人 岡山大学

「現職教員に対する研修講座・公開セミナー等の修了により、教職大学院において単位を授与する制度の導入・プログラム開発」

たいへん興味深い発表であった。現職教員は様々な研修を受講することを求められているが、岡山大学では教育委員会、教員支援機構、岡山大学による研修講座等の修了証明を活用して、教職大学院の単位として認定するラーニングポイント制を導入し始めた。学びの機会は大学の中だけではないので、本学の教学面においてもこのような取り組みが可能かどうか検討に値すると思われる。

#### ②長野県教育委員会

「指標に基づく教員の資質能力の向上」

こちらも大変興味深かった。上にも述べたとおり、現職教員は様々な研修を受講する必要があるが、長野県教育委員会は子供を育てる教師を育てるという観点から如何にして教員の能力を引き上げるか、教員の悩みに寄り添うかに真剣に取り組む、信州型 UD（ユニバーサル・デザイン）カードを開発し、教師力の向上に努めている取り組みが紹介された。

#### ③株式会社 早稲田アカデミーと奈良市教育委員会

「ICTを活用した授業力向上研修の開発と実践」

残念ながら発表に具体性がなく、得るもののない発表であった。

④国立大学法人 福岡教育大学

「オンラインによる研修を効果的に活用した中堅教員資質向上研修モデルの開発に関する調査研究」

現職教員は多忙な中、研修にも参加しなければならないわけだが、当然、負担の増加が指摘されている。福岡教育大学ではそうした研修の一部をオンライン化することによって教員の負担を軽減すると同時に、従来は近隣に限られていた研修を九州全域に広げることも視野に入れた取り組みで、全てをオンライン化することはおそらく逆に効率が悪いと思われるが、メリハリを付けてオンライン研修を取り入れることは効果的であろうと思われる。

⑤国立大学法人 兵庫教育大学と加西市教育委員会と新潟市教育委員会

「新しい時代に対応する学校管理職マネジメント等研修プログラムの開発」

兵庫教育大学と加西市・新潟市の関係が明確ではなく、発表の準備にも難点があり、ピントのボケた発表であったと言わざるを得ない。ただし、管理職をターゲットとした研修というのはあまりないと思われるので、大学においてもたとえば教学部門の管理職（学部長、教学部長、教務委員長など）の研修にそろそろ取り組む時期であろうと思念する契機になった。

## 2. 研修の成果

初等中等教育における教師力向上の取り組みはかなり進んでいることがわかった。この流れは次は大学に向かうことは明らかであるし、事実、すでに大学教員の教員研修もあちこちで取り組まれている。大学教員は研究者であると同時に教員でもあるという難しいポジションであるが、学生を前にして講義を行う以上、教員としての能力も当然高めていく必要を強く感じる。

個別については「1. 研修の内容」に含めておいたので、そちらを参考していただきたい。

## 3. 授業への研修成果の反映状況

さしあたってすぐに授業に成果を反映できるたぐいのフォーラムではなかったのだ、割愛させていただく。

学部長	学習・教育支援センター委員長	学習・教育支援センター委員会	名古屋教務課長	係